

氏名	青 江 肇
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 695 号
学位授与の日付	昭和50年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	Histochemical studies of hepatic hexokinase and glucose - 6 phosphatase in chronic liver diseases (慢性肝疾患における肝の酵素組織化学的研究 —とくにヘキソキナーゼ, グルコース 6 ホスファターゼを中心に—)
論文審査委員	教授 大 藤 真 教授 平 木 潔 教授 水 原 舜 爾

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

解糖系および糖新生系の律速酵素である low - K_m hexokinase (HK), glucose 6 - phosphatase (G 6 Pase) 活性を, 急性肝炎回復期, 慢性肝炎(活動型, 非活動型, 垂小葉性壊死を伴うもの) 肝硬変症例の 47 例および肝機能障害をみとめない対照例 3 例の生検肝について, 酵素染色を行ない検討を加えた。一般的に HK は濃染し, G 6 Pase は弱く染色された細胞には変性所見がみられた。慢性肝炎活動型においては小葉全体にわたって HK は濃染し中心部でその傾向は強く, G 6 Pase は小葉辺縁帯で正常の活性を保ったが, 中心帯では活性低下がみられた。また限界板の破壊を伴う部位における肝細胞には HK の濃染と G 6 Pase の淡染が肝細胞の変性部位に一致してみられた。

一方, 肝硬変への移行が注目されている垂小葉性肝壊死を伴う慢性肝炎では HK, G 6 Pase の染色に肝小葉内での不均一性が強くみとめられ, HK 活性上昇部位で G 6 Pase の活性低下が多く観察され, 本病態の特徴的な所見と考えられた。肝硬変症例では結節内で HK 活性は上昇し, 完成された結節では G 6 Pase 活性は強く染色されたが, 変性細胞を多くみ, また境界の不鮮明な結節では, G 6 Pase の活性は低下していた。

以上, 垂小葉性肝壊死を伴う慢性肝炎における HK, G 6 Pase 活性の不均一な染色性は肝細胞の質的な変化を示し, 壊死まなは再生へとつながり肝硬変に移行する組織の質的变化を表示するものと考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は, 慢性肝疾患における肝の酵素組織化学的研究を行ったものであるが, 従来十分確立されていなかった慢性肝炎から肝硬変症への組織学的移行について重要な知見を得

たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。